

## 耐震診断判定特別委員会からのお知らせ

# 耐震診断判定特別委員会からのお知らせ

長野県耐震診断判定特別委員会  
委員長 中込 忠男

平素は学校等の耐震診断・耐震補強業務にご尽力いただきましてありがとうございます。長野県耐震診断判定特別委員会では、下記の内容につきまして判定委員の合意を得ましたのでお知らせいたします。今後の業務にご活用頂きますようお願い申し上げます。

- 1.低強度コンクリート建物の耐震診断・補強計画に対する判定会としての取り扱いについて、別紙の「低強度コンクリート建物の耐震診断・補強計画マニュアル(長野県耐震診断判定特別委員会)」を作成いたしました。
- 2.吹付け材にアスベストが含有している為、接合部等の調査ができない鉄骨造建物について、設計図に基づき耐震診断・補強計画を行ったものについて判定を受け付けます。但し、判定書は(仮)判定書として調査が不十分であることを明記します。その後の調査で、診断時に仮定した状況と同一であった場合は、判定会にその資料を提出していただき判定委員の確認を受けて正式な判定書を発行いたしますが、状況が異なっていた場合は再判定を受けて頂きます。
- 3.鉄骨造建物の耐震診断を行う際に、診断基準等に明記されていない事項について、別紙「鉄骨造建物の耐震診断における取決め(長野県耐震診断判定委員会)」を作成いたしました。

# 低強度コンクリート建物の 耐震診断・補強計画判定マニュアル

(社)長野県建築士事務所協会耐震診断判定特別委員会では、耐震判定を行う場合における低強度コンクリート建物の取扱いを以下のように定める。

## a) 耐震診断判定について

(a)採用強度が $10\text{N}/\text{mm}^2$ 以上  $13.5\text{N}/\text{mm}^2$ 未満の場合

- ①判定を受け付ける。
- ② $I_s$ 値は採用強度によって求めた計算値に「採用強度/13.5」を乗じる。もしくは、これと等価な方法で低強度による低減を考慮した値を診断結果とする。低減方法は診断表及び判定書に明記する。
- ③ $I_s$ 値の低減を行った結果が判定値以上であり、建物に構造障害が生じていないことが確認できた場合は「妥当である」と判定する。

(b)採用強度が $10\text{N}/\text{mm}^2$ 未満の場合

- ①判定は受け付けるが、受付時に追加調査が望ましいことを伝える。
- ② $I_s$ 値の低減は(a)-②と同様に行う。
- ③低減後の $I_s$ 値が判定値を上回っていても「妥当である」とは判定しない。判定書に低強度に関する所見を記載し、被害を受ける可能性があること、早期の建て替えが望ましいことなどを明記する。

## b) 耐震補強計画について

(a)採用強度が $10\text{N}/\text{mm}^2$ 以上  $13.5\text{N}/\text{mm}^2$ 未満の場合

- ①判定を受け付ける。
- ② $I_s$ 値は(a)-②によって低減を行う。
- ③補強方法(内補強または外補強)の妥当性は判定会の判断による。
- ④建物に構造障害が生じていないことを確認し、診断表及び判定書に明示する。

(b)採用強度が $10\text{N}/\text{mm}^2$ 未満の場合

- ①建て替えを前提とした応急補強の場合のみ判定を受け付ける。

## 耐震診断判定特別委員会からのお知らせ

## 鉄骨造建物の耐震診断における取決め

診断基準に明記されていない下記の事項について、当判定会では下記のように取決めましたので参考にしてください。

## 1 柱梁接合部

	耐 力	F 値
①ダイヤフラムが不十分な場合	東京都システムマニュアルにより低減する	1.0 (1.3)
②突き合わせ溶接の欠陥が無い場合	低減無	準拠する基準
突き合わせ溶接の欠陥が有る場合	欠陥領域 I～IVにより溶接フローチャート(P19)を参考に決定する	
③隅肉溶接の溶け込み及びビード形状が良好な場合	係数1.4採用可	1.0 (1.3)
隅肉溶接の溶け込み又はビード形状が不良な場合	係数1.4採用不可	1.0 (1.3)
④ダイヤフラムに目違いがある場合	状況により低減は診断者が判断する	
⑤H形鋼柱弱軸側の梁溶接耐力は柱フランジとの溶接長さのみ考慮する(柱ウェブとの溶接長さは考慮しない)		

F値のカッコ内は屋体基準採用の場合

## 2 パネル（弱軸方向） 溶接が良好な場合に限る

	パネル体積の柱厚	耐 力	F 値
①梁が柱中央、水平スチフナー有の場合	柱両フランジ幅 1 / 2	係数4 / 3無	※4.0
②梁が片寄り 水平スチフナー有の場合	柱片フランジ幅 1 / 2	係数4 / 3無	※4.0
③梁が片寄り 水平スチフナー無の場合	柱片フランジ幅 1 / 4	係数4 / 3無	※4.0
④梁が柱中央 水平スチフナー無の場合	ピン接合		

(※4.0の採用はその他の最小耐力がパネル耐力の1.5倍以上ある場合に限る。1.5倍以下の場合はその他の最小耐力のF値を採用する)

## 3 パネル（強軸方向）

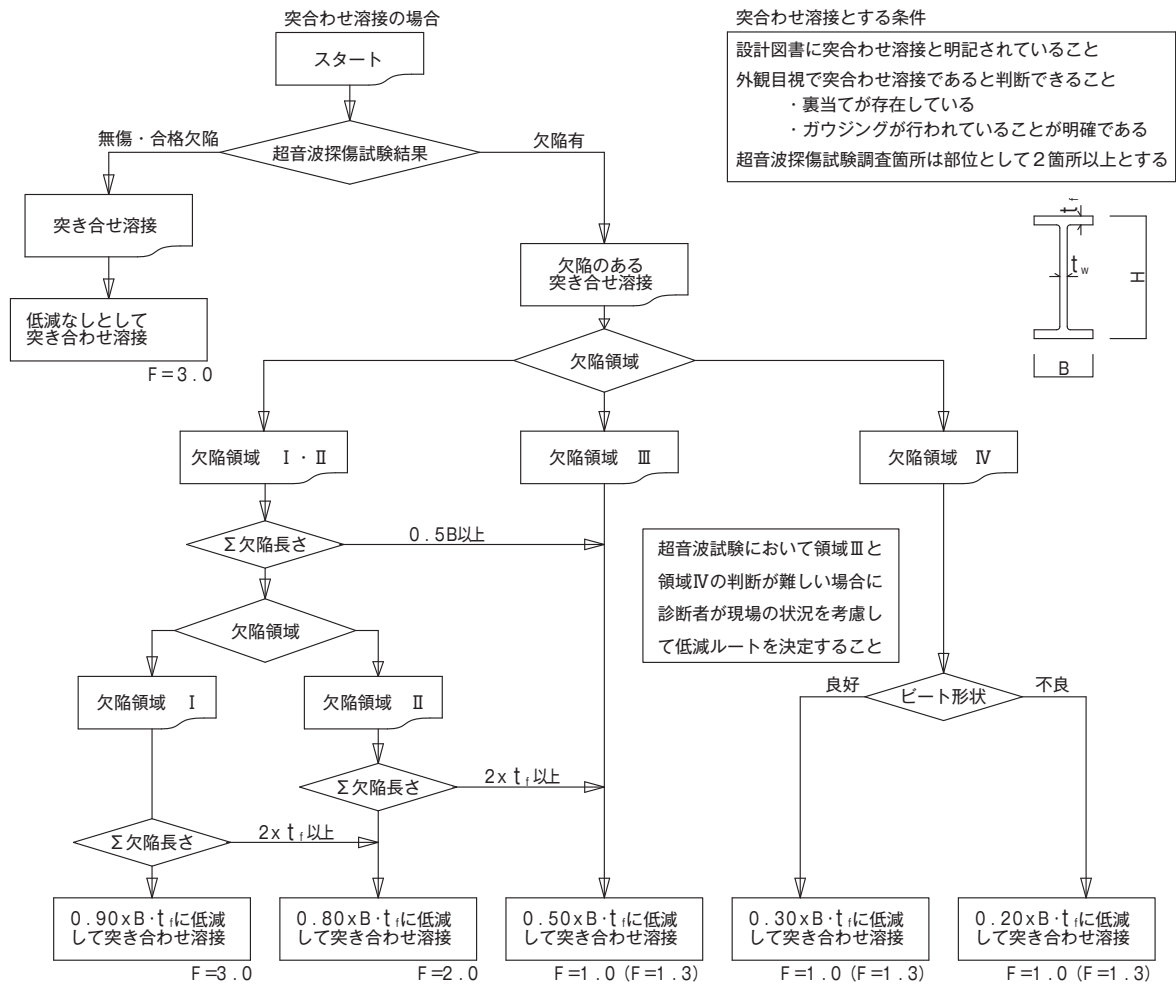
①直交梁のGPL等で十字型補強となっていてスチフナーが突き合わせ溶接の場合(JIS材に限る)

耐 力	F 値
1.5倍	※4.0

## 4 規格降伏強度

JIS規格品として1.1倍を採用する場合は、既存図面に明記されている事等の根拠を添付する

# 鉄骨造の現地調査の結果から 溶接強度を算定する方法 (溶接フローチャート)



すみ肉溶接と判断した場合

